Japan Society of Obstetrics and Gynecology

日本産科婦人科学会雑誌 ACTA OBST GYNAEC JPN Vol. 34, No. 12, pp. 2273—2278, 1982（昭57, 12月）

診療（依頼稿）

性 医 学

滋賀医科大学産科学婦人科学教室
教 授 吉 田 吉 信
助教授 笠 井 寛 司

Key words: Human sexuality・Sexology・Sex education・Sexual medicine

緒 言

性医学とは何を指すのか．これを定義づけることは極めて困難である．言い得ることは今日まで医学の研究対象として陽の目をみなかつた分野であること，したがつて学問として体系化されるまでには至つてないということである．医学で採り上げられる性は，これまではreproductive medicineに集約されるものであつた．医学がreproductionを離れて，ヒトの性を正視することに偏見があつたし，今日尚その偏見は存在する．学問体系として性器と直接係わりをもつ産婦人科学や泌尿器科学を学習すれば，既に性についても学習し得た，という理解は錯覚の典型と言えるだろう．誤解や錯覚は偏見と同様に学問の遂行には邪魔である．わが国ではreproductionを離れてヒトの性を論ずることには大抵のものは躊躇する．人間とヒトの性は，何も再生産性のみによつて存在意義があるのではなく，人間の実存と不分離である．例えば医師は不妊の患者と性器解剖や内分泌の話は容易に出来ても，治療上最も基盤となる性行動について会話することは，医師も患者も躊躇し，時には忌避的でさえある[1]．ヒトの性は，言うまでもなく肉体と精神の両面行動によつて形成される[7)24)]．いずれの面に不都合を来たしても，円滑に性が作動することはない．また道徳や倫理の介在はヒトの性の本質を暴け出させるどころか却つて本音の部分を覆い隠してしまうであろう[11]．これまでの生物学や医学に於ける性，それは学問の対象であり，しかもreproductive biologyやreproductive medicineに方向づけられた性でさえ，研究従事者自身が倫理や道徳の規範支配を受けなかつたであろうか．性に対する学問的偏見や倫理規範は，ヒトとしての生物集団であり人としての集りである社会を乱さない範囲に於いて除去しない限り，このような無形の支配を将来に亙つて存続させる可能性を残すであろう．またreproductionに結びつかないヒトの性は何故卑しいと見做されるのだろうか，それを説明するに足る根拠は社会秩序と倫理という無形の支配以外に何物も人には備わつていない．倫理は作られた意図である．

医学は学問として，表も裏もない真理を求めるものである．性医学が医学の一分野を占めるならば，学問の対象であるヒトの性に表と裏とを差別することは許されない筈である．ただ今日の段階では，性医学は上述の如く，理念・概念としては存在し得ても，学問上の方法論あるいはそれを体系化する方策も明らかでなく，加えて倫理・道徳的規制を免かれ得ない状態である．われわれも模索中であるが本篇ではヒトの集団と個体の性，性教育への道，性教育と性医学，という観点から，われわれが本学で行つている性医学講義の一端を被露してみようと思う．性医学の体系化に一助ともなれば望外の幸せである．

1. ヒト，その集団と個体の性

ヒトの性にどのような位置づけをし，どのような価値判断をするかは，本来完全にヒトそれぞれの個性に帰属するものである．個体の性はその個体にのみ従属的である筈のものが，生物である個体が集団を形成する，という生物学的特性がある

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Obstetrics and Gynecology

限り，性も個体に対すると同様にその個体が属する集団にも帰属するようになる．集団の数が増し，集団自体の多様化は個体従属的である筈の性にも必然的に多様化現象を惹起することになる．性の個体への従属は理念と行動を共にしたものであるから，集団に従属する性にも理念と行動の多様化を伴なう．多様化が激しくなれば，集団の維持は著しく不都合になる．集団の維持のためには，性をcontrolすることが最も都合のよい手段である．なぜならヒトの集団維持あるいは集団の分裂増殖現象と性は不分離の関係にあるからである．しかし集団が群集であるか公衆であるかによつて，性のもつ重要性は異なつてくる．したがつて集団の多様化を防ぐために最も手近かで効果的なことは，群集を相手に性を制御することである．他方戦いは集団の分裂増殖を防ぐもう一つの手段であるが，戦いを始めるに当つては，どの集団でも殆ど例外なく性を統御してきた．逆に戦いが終結すると，いち早く多様化を示すのも性である．このような際にみられる性の多様化は，一つは集団内の個体ごとにみられる．集団特異的多様化と，他の一つは集団間の疎通性によつて惹起される多様化である．ヒトは多様化のたびごとに知識を集積してきた．その結果ヒトは，ヒト以外の霊長類との間に格段の知識差をつけることができた．この知識の集積がヒトの性の多様化，殊に理念と行動に多様性をもたらせた[4]．しかし反面，ヒトにはヒトの性の多様化を個体に合つたように制御できるだけの，より高度な知識がまだ十分備わつたとは言えない．しかも性の多様化という認識さえ，所謂欧米先進諸国で生まれたのはまだ半世紀にもならない過去のことである．西欧諸国では宗教的な背景もあつて，殊に性に対する偏見が強かつた．例えば，今日では目新しいものでもないH. Ellisの「性的倒錯」は1901年，猥褻であるとの理由で発禁になり，また1938年には，New Yorkで妊娠，性病，避妊，堕胎，私生児，売春，黒人と白人間の性交，離婚を扱う映画を一切上映禁止処分にする措置がとられるなど，例は枚挙に遑がない程である．翻つて，わが国におけるヒトの性についての理念は，素朴かつ鷹揚であつた．しかし少なくとも明治以降は急速に性の個性化は阻げられるようになり，生物学あるいは医学の分野と雖どもその難を免かれることはなかつた．謂わばヒトの性の表の部分，即ちヒトの生物学的maintenanceのみが強調されたのである．しかし，上述の如く米国でみられたような，性の個性化は相当早い時期からわが国でも起つている．例えば，小倉清三郎が主宰した相対会が，会員組織を通じて流布した「相対会研究報告，全34巻」を通覧すると，ヒトの性の個体による差異が明瞭に浮き彫りにされていることがわかる．つまり，わが国における性の個性化に対する意識は決して乏しかつたわけではない[3]．それどころか欧米諸国に優るとも劣らざる個性化の種は播かれていたといえる．しかも発芽に適する土壌は十分肥えたものであつた．しかしこうした個性化の芽は発芽と同時に摘みとられ，剰れ肥沃な土壌まで砂漠化されようとした．しかし戦後今まさに不毛の土地と化す直前，異なる社会構造様式をもつ集団との疎通性がみられ，その社会集団では，既に性は個体に帰すものである，との理解が高まつているのを知つたのである．W. Reichは「性革命」を世に出して，性の個性化を促す一方[22]，Kinsey et al.[12][13]，Master and Johson[15]~[17]，Money et al.[19]，Dickinson[5]，Pietropinto and Simenauer[20]，それにLiefによつて[14]，着実にヒトの性を科学的に解析していることを知らされた．医学の領域で，これほどまでに彼我の較差があることに更めて驚愕し，社会を疎外したわが国の医学教育の在り方に疑問を抱かせられたのである．遅ればせながら，極く最近になつてわが国の医学教育の中でも，やつと「性の個体帰属性」を認識した動きがみられるようになつた．今後更にヒトの集団，即ち社会から一時的にせよ隔絶されるような，例えば入院加療を要する患者の性を，その個体に応じた適切な医学的指導が可能ならしめられるよう．医学的知見の集積が望まれるところである．

2. 性医学への道

ヒトの性行動には理念あるいは理性と呼ばれるものが随伴する．これがヒトの性行動の無形の原点である．またこれら理念や理性が，ヒト集団に

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Obstetrics and Gynecology

対して適合性を有するか否かは別としても[6)16)]，ヒトの性行動は，大脳活性の結果生ずるこれら無形の産物によつて何がしかの制御を受けているものである[4)10)]．しかし時にはこの無形の産物を見失つたり，実際に産生しなくなつたりすることがある．その時のヒトの性行動は，ヒト以外の動物の性の目的と同じように両性の性器の結合しか残らない[27)28)]．大脳活性の無形の産物を有するヒトの性を，ヒト以外の動物のそれと区別するために，最近では Human sexuality という表現が用いられている[7)24)]．既述の如く，性は個人に帰属するものである，との認識が高まるにつれて，個々の人間による性の捉え方の多様性が益々表面化する傾向がみられるようになつてきた[8)9)]．多様化するヒトの性を分析すると，現段階では大略次のように区分することが出来るだろう．即ち，1．ヒト以外の動物に共通する性行動様式をもたらす性．2．特定の集団に拘束される性と他集団にも疎通性をもつ性．3．人種，所属する社会構造様式（政治的，経済的，宗教的，文化的，歴史的等々）から超越した行動 patterns を示す性と，これら個々の要因によつて影響された行動 patterns を受諾する性．4．教育あるいは調教によつて変貌する可能性のある性と然らざる性．5．Mass media に適合性を示す性とそれを拒絶する性，である．ヒトの性は，性学（あるいは性科学）sexology として，人類学的，社会学的，生物学的更には医学的に広い範囲の学問体系の接点としての性と，ヒト以外には考えられない性の存在目的を追究する，二つの大きな方法論上の違いによつて，帰結する処が二つに別れる．一つは population maintenance のみに係わる性である．これは，子々孫々に引き継がれる性質のものであつて，時間的，空間的な影響を受けない性である．こうした個々の reproduction を通して語られるヒトの性の原点は，まず再生産性をどのように方向づけるか，という点に絞られてくる．自然科学的には，ヒトの reproductive biology の問題である．しかし他方，われわれが human sexuality および human sexual behavior を考える際に，reproduction behavior 以外の共通の性があるのかどうか，あるとすればどのような性なのか，という点が最も関心を呼ぶところである．既述の如く，ヒトの性のうち集団特異的な面は，Kinsey et al. 以降欧米諸国では可成り詳細に研究されている[8)20)25)]．しかし現時点では既にヒトの性に対する視点は個体の性に移されようとしている．一方わが国では今なおヒト集団としての性が研究対象であり，しかもその大部分は西欧諸国で用いられた方法や成績が直ちに日本人集団に当てはまるという理解が先行している．われわれ医学の領域に携わるもの，就中産婦人科学を主領域とするものには，ヒトの性は reproductive medicine によつて大部分が対応可能である，という謂わば古典的な発想がある．それは今日的な性への対応策には邪魔になりこそすれ決して prospective なものとは言い難い．仮え reproductive medicine の知見が進展しようとも，ヒトの性への対応としては reprospective であると言わざるを得ない[3)]．他の一つは mass media との対応という点である．ヒトの性は疑うべくもなくヒトの興味の対象である．しかもその興味には幾段階にも分けられる，謂わば "grading" がある．換言すると単に外性器の性差に対する primitive な興味から，集団へ handicapped なるが故に適合性をもち得ないヒトに対する，精神的，肉体的援助という形での性知識の集積まで[18)23)]，その内容は千差万別である．しかし知識の集積とはいうものの，それらの殆どは今尚未知の部分が多く，しかも，もともと「自己の性経験」と断片的な性知識のもち合わせしかない一般大衆を対象に情報を交換するのであるから，系統的な情報分析能力や手法には限界がある．結果的には情報が科学的に妥当か否か未知のままに，得られた成績は無意識のうちに固定化し，そのあげく性に対する疎外感を抱かせたり，「他人と同じでなければならない」という自己強迫的概念を植えつけてしまつたりする．Mass media による性は決して個々のヒトの性を対象にしたものでもなく，採用するに足る「ヒトの集団の性」から得られた情報でもない，というのが，巷間に見受ける性情報を分析した結果，著者らが得た認識である．しかし外国殊に米国ではこのような mass media による性分析が盛んであ

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Obstetrics and Gynecology

る[21)25)]．しかもそれらの成績は間髪を入れずにわが国に持ち込まれる．必然的にわれわれの母国語には馴みの薄い性用語が国中に蔓延するようになつた．その結果われわれ同業者の中でも混乱を来たし，また同業者とそれ以外の者との間の意志疎通性は益々阻害されるようになつてきた．その正否は別として，性知識は医師と医師以外の者に対して同格的な存在である．性用語は両者を同じように混乱させる可能性をもつている．これはわれわれにとつて脅威であり，見方によつては不幸なことである．また性情報に接する機会やその時期は，概して性を研究対象とするわれわれの同業者を除いて，彼らの方が多く且つ早いようである．しかも巷間の性情報に医学的見地に立つ見解や解説が加えられることが少ない．仮りに加えられるとしても human sexuality を専門とする者によるよりも，従来の reproductive medicine だけの専門家である場合が大部分である．ヒトの場合，前述の population maintenance だけが医学で取扱われるべき性でないことは今日の世の趨勢からみて明らかである．当然のことながら reproduction mechanisms が明らかにされることは，逆にそれを避ける方法も明らかになることである．ヒト以外の動物の reproduction はヒトが control することができるが，ヒトがヒトの reproduction を自分の手で control するにはそれなりの理由付けとそれを確実ならしめる理性とが要求される．単に mechanism として reproduction や contraception といつた human sexual behavior について語るだけでは，ヒトの現実生活にとつては机上の空論に等しい．これらをどのように指導するかという問題，あるいはまたヒトの精神的，肉体的な性に対する理由づけを，個体別にあるいは亦集団として検討するところに医学の介入すべき大きな意義があるといえよう．また，わが国の置かれている資本主義社会では，mass media に適合する性は恰も commercial message と同様に，ヒトの集団に appeal するものでなければならないという大前提がある．しかも対象が公衆であるよりも群集であることの方がより効果的であり好都合である．医学が採り上げるヒトの性の研究成果が如何に高邁なものであつても，それをヒトに還元できるかどうかはその手段，目的に依るものであり，それらに目を瞑るようでは，その成果の価値は著しく低減するといわざるを得ない．誤解を招きかねないヒトの性あるいは性行動の側面は，資本主義的合理性に依る部分が大きい．この事は医学が群衆にも公衆にも等しく果実を分け与えなければならない，という理念にもそむくことになる．

3. 性教育と性医学

性を通して，両者は共にヒトの集団，即ち人間社会への係わり，あるいはまた個体間および個体と集団との適合性の問題に視点を置く，という点で共通の理念に立脚している[7)11)]．しかし性教育は，謂わば性意識の発達途上段階におけるヒト個体あるいはその集団に「教育」という理念と手段によつて，適合性を与え，ある種の規範の中でそれが正常に作動するように働きかける意図的なものである．これに対して性医学は，学問として不変の知見を以つて，ヒト個体間あるいは個体と集団の間に生ずる良好な精神的，肉体的関係を保持し，あるいは改善するために必要な性および医学的知識を交換するものである[14)19)26)]．しかも対象となる個体および集団は必ずしも性意識の発展段階に捉われない．一方性教育では，歴史的・文化的・宗教的基盤に立つて，倫理的，道徳的抑止力として存在価値の位置づけがみられる[11)]．わが国のように，一般的に法治国では社会秩序の維持は定められた法に基づく．法に従わない行為は「不法行為」と呼ばれるが，社会規範や，教育理念に背く行為は非行と呼ばれる．厳密には法律行為の対象となる年齢あるいは個体の諸条件によつて「非行」か「不法行為」かは区分されるものであるが[27)28)]，「非行」が「不法行為」よりも優先且つ広い概念を有する．従来の性教育は，解剖学的な性差を教え，それを基盤とする reproductive biology をヒトのそれに置き替えたものであつた．ヒトの性とヒト以外の生物の reproduction mechanism を同時に扱いながらその中からヒトに係わる点を明らかにし，如何にして個人ならびにその個人が属する社会を「正常」に維持するかを

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Obstetrics and Gynecology

指導してきた．この点性教育は個人よりも集団の維持に力が注がれたとも言える．またそこで為される精神面の教育は集団のための規律に他ならない．観点を変えて性教育を受けるであろう年齢層について眺めると，わが国では集団に対して個人が係わることの出来る（法的責任の発生）年齢を満20歳と定めている．同じように未婚状態であつても満20歳に達してなければ性非行と呼ばれるものでも，満20歳に達しておれば不法行為でもなく勿論性非行とも呼ばれない．これは法の定める成人の意味が大きいことを示すものである．しかし今仮りに16歳の未婚女性が妊娠した場合，そのまま未婚でおれば直ちに非行のレッテルを貼られるが，結婚すれば逆に民法753条によつて成人に達したものと見做され，非行であるどころか世間では「幸せな女性」というような見方さえされる．医師の目からみて幸せかどうか，単に非行のレッテルを免かれることがその女性の長い将来にとつて利益になるのかどうか，など精神的・肉体的・社会科学的に考えてみる必要性はないだろうか[2]．別の観点から，性教育はヒトの sex-span の junior な部分を担当するといえるようである．Junior とは何も年齢が低いことや未熟である，というのではなく，或る物に将来は引継がれていく段階，という意味である．所謂性教育の理念から逸脱したもの，性教育では及ばないところにあるもの，教育と法とで代表される社会学的，人類学的な問題などは全て senior なものと解することが出来る．更に，上述の如く民法では年齢区分あるいは自己を含めた男女両性による最小単位の集団を作ることによつて社会への適合性を判断している．しかしヒト集団への適合性の有無は法律で定められたものの他に，精神的あるいはまた肉体的な欠落（Handicapped）によつても規定される[2)16)17)]．適合性を欠く原因が医学と深い係わりをもち，しかも適合性の欠落の側面が性であるならば，医学はそれを通してその個体が集団適合性を獲得できるように援助する責務がある．そのために知識を集積し，最も効果的に援助しうる方策を見出そうとするのが性医学の根幹であり，性医学は医学を基盤として広くヒトの性を考え，ヒト個体ならびにその個体の集団適合性を論ずる分野である，と言い換えることもできる．また性医学は性学 sexology だけでもない．常に医学に立脚したものであり，ヒトの性を対象とした人間科学である，とわれわれは考えている．性医学には Sexual Medicine, Medical Sexology あるいは Medical Aspects of Human Sexuality などと呼ばれているが，母国語でない用語を敢えて用いるならば Human Medical Sexuality あるいは Medical Sexuality of Human Science と呼びたいところである．

まとめ

ヒトとヒト以外の生物との最も大きな相違点の1つは個体と集団との係わり方にある．ヒトは個体同志の，あるいは個体と集団との係わりの中で，益々個性化する性のもつ意義を考え，精神的・肉体的に昂揚（Aufheben）する．性医学の対象はヒトである．ヒトの性を通して，個体間あるいは個体と集団との適合性を維持しあるいは適合性を得さしめるために，医学的視野に立つて研究，応用を目的とした人間科学の一分野である．人間科学には自然科学のみならず社会科学，人文科学の知見も重要な学問基盤である．肉体的 life-span が個人特性であるように精神的 life-span も個人特異的であり，両者はまた集団特性とも密接に係わる．ヒトは精神病理環境と不分離である．性医学を扱うには産婦人科学が他のいずれの学問領域よりも手近かである．しかし最も優れているかどうかは疑問である．本篇では性医学の対象と目的を総論的に述べてみた．人間科学の重要な一分野として今後体系化が望まれるところである．

文献

1. 笠井寛司，青地秀樹，大島正義：男性不妊夫婦における性生活，その統計的観察．産婦進歩，30：125，1978.
2. 福島　章：異常性愛．性医学シリーズ No.11，メディカルトリビューン日本支社，東京，1976.
3. 押鐘　篤：医師の性科学．学建書院，東京，1977.
4. *Adler, N.T.* : Neuroendocrinology of reproduction. Physiology and behavior, Plenum Press, N.T., 1981.
5. *Dickinson, L.* : Atlas of human sex anatomy. Williams & Wilkins, Co., Baltimore, 1969.
6. *Goodwin, J.* : Sexual abuse. Incest victims and

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Obstetrics and Gynecology

their families, John Wright PSG, Boston, 1982.

7. *Green, R.* : Human sexuality. Williams & Wilkins Co., Baltimore, 1979.
8. *Hite, S.* : The Hite Report, A nationwide study of female sexuality, Dell Publ. Co., N.Y., 1976.
9. *Hite, S.* : The Hite Report on male sexuality. Alfred A. Knopf Inc., N.T., 1981.
10. *Hrdina, P. and Singhal, R.L.* : Neuroendocrine regulation and altered behaviour. Croom Helm Ltd., London, 1981.
11. *Johnson, W.R. and Belzer, E.G.Jr.* : Human sexual behavior and sex education. Lea & Febiger, Philadelphia, 1973.
12. *Kinsey, A.C., Pomeroy, W.B. and Martin, C.E.* : Sexual behavior in the human male. W.B. Saunders, Co., Philadelphia, 1948.
13. *Kinsey, A.C., Pomeroy, W.B. and Martin, C.E.* : Sexual behavior in the human female. W.B. Saunders, Co., Philadelphia, 1953.
14. *Lief, H.I. (compiled)* : Medical aspects of human sexuality. Williams & Wilkins, Co., Baltimore, 1975.
15. *Masters, W.H. and Johnson, V.E.* : Human sexual response. Little, Brown and Co., Boston, 1966.
16. *Masters, W.H. and Johnson, V.E.* : Human sexual inadequacy. Little, Brown and Co., Boston, 1970.
17. *Masters, W.H. and Johnson, V.E.* : Homosexuality in perspective. Little, Brown and Co., Boston, 1979.
18. *Morneau, R.H.Jr. and Rockwell, R.R.* : Sex, motivation, and the criminal offender. C.C. Thomas Publ., Springfield, 1980.
19. *Money, J. and Musaph, H.* : Handbook of sexology. Excerpta Medica, Amsterdam, 1977.
20. *Pietropinto, A. and Simenauer, J.* : Beyond the male myth. A nationwide survey, New York Times Book Co., N.Y., 1977.
21. *Pietropinto, A. and Simenauer, J.* : Husbands and wives. A nationwide survey of marriage, New York Times Book Co., N.Y., 1979.
22. *Reich, W.* : The sexual revolution. Orgone Inst. Press, N.Y., 1945.
23. *Scott, V.X. and Lee, H.d'H.* : Surrogate wife. C.E. Tuttle Co., Rutland, 1971.
24. *Steen, E.B. and Price, J.H.* : Human sex and sexuality. John Wiley & Sons, Inc., N.Y., 1977.
25. *Tavris, C. and Sadd, S.* : The Redbook Report on female sexuality. Delacorte Press, N.Y., 1977.
26. *Victor, J.S.* : Human sexuality. A social psychological approach, Prentice-hall Inc., Englewood Cliffs, N.J., 1980.
27. *Warner, C.G.* : Rape and sexual assault, management and intervention. AN ASPEN Publ., Germantown, Maryland, 1980.
28. *Wilson, J.* : Sexpression. Prentice-Hall, Inc., Englewood Cliffs, N.J., 1980.

NII-Electronic Library Service